

【コース】 良医への道 1

【コースディレクター】

CD : 柴崎 智美(医学教育学)

【コースの概要】

優れた医師になるためには、自然科学－基礎医学－臨床医学の積み重ねで構築される知識と概念の体系をしっかりと修めることが要求される。これらは、医科学への道すじコース、人体の基礎科学コース、細胞生物学1コースおよび人体の構造と機能1コースで学ぶことに始まる。

しかし、優れた臨床医となるためには、同時に身につけておかなければならないことがある。それは独立した大人としての、豊かな人間性、幅広い社会的・国際的視野、探求心と科学的思考能力である。これらについては、以下のことが重要である。

- 1) 独立した大人として自己を大切にし、他者も同様に大切にし、社会の一員として責任ある行動をとる。
- 2) 健全な批判精神を養う。
- 3) 種々の論理の整合性や多様な価値観のバランスをとって、現実的によりよい判断をする。
- 4) 幅広い教養を身につける。

また、最新の医療上の技術を兼ね備えなければならないことはもちろんであり、これも1年生から始まる。

良医への道コースは、1年生から4年生まで段階的につづくコースであり、このコースを通じて、生涯にわたり自ら学習を続けることができる医師として必要な教養を身につけなければならない。また、基本的な臨床推論力・臨床技能も着実に修得していかなければならない。大学での学習は、高等学校までの「勉強」とは本質的に違うものである。本コースを通じて諸君が今までと違った面でも大きく成長してくれることを強く願っている。

良医への道1コースは、下記の9ユニットによって構成されている。

- ◆ 行動科学と医療倫理
- ◆ キャリアデザイン
- ◆ 地域医療とチーム医療
- ◆ 臨床推論
- ◆ 臨床入門
- ◆ 医学英語 1～3
- ◆ 選択必修

【目 標】

本コースの目標は次のようにも表すことができる。

*患者さんやその家族・医療スタッフに信頼される、優れた医師となるために、疾病の社会・経済的側面、心理的側面に関する基本的な知識を学ぶとともに、医療人としての厳しい倫理観のもとに、病める人の気持ちを理解し共感できる態度を身につける。

*医療チームの一員として活動できるようになるために、実習や演習、様々な体験を通して、コミュニケーションをはじめとするひとと関わるための技能や基本的な臨床推論力・臨床技能を段階的に修得する。

【学習方法】

「独立した大人としての、豊かな人間性、幅広い社会的・国際的視野、探求心と科学的思考能力」や「基本的な臨床推論力・臨床技能」は、受動的に出席しているだけでは決して身につかない。**建学の理念の2.**にあるように、自ら考え、手を動かし、自分で成長していくことによってのみ、身につけることができる。

詳細は各ユニットの項を参照すること。

【評価方法】

医学生としてふさわしくない態度、行動があった場合、評価の対象とせず、不合格とする。

1年生の間に、本学の医学生としての規範を理解していることと社会人としての基本姿勢を身につけていることを確実に評価する。

本コースでは、以下のマイルストーンの評価を担当している。

コンピテンシー 1-(5)法規定や社会・組織の規則・規範を遵守し、行動する

1年次マイルストーン「本学の医学生としての規範を理解し、守ろうとする姿勢ができている」それぞれのユニットで示す守るべき規範は以下のとおりである。不合格の場合には、教員により面談と振り返りを実施し、振り返りレポートの内容によって再評価を行う。

- ◆ 行動科学と医療倫理、キャリアデザイン、医学英語 1, 2, 3 : 75%以上の出席
- ◆ 地域医療とチーム医療 : 75%以上の出席、態度（提出物の期限の厳守）
- ◆ 臨床推論 : 75%以上の出席、チューターからの実習態度の評価
- ◆ 臨床入門 : 90%以上の出席と欠席時の事前連絡、実習態度（身だしなみ、提出物の期限の厳守）
- ◆ 選択必修 : 2/3以上の出席

【指定教科書】

各ユニットの項を参照すること。

【参 考 書】

- ◆ 各ユニットの項を参照すること。